様式 2

令和 5 年度 東京藝術大学 未来創造継承センター
芸術資源活用プロジェクト　実績報告書

※Word ファイルで提出してください。

プロジェクトのタイトル	Le Rire 表紙展 ～渡辺恂三の集めた夢～	
実施責任者（申請代表者）	氏名	所属／学年／役職 （所属がない方は未記入）
	渡辺　愛	音楽環境創造科非常勤講師
実施期間	2023 年 4 月 1 日 ～ 2024 年 3 月 31 日（展示期間は 2024 年 1 月 6 日～2 月 7 日）	
実施内容 ※申請書の「プロジェクトの概要」や「実施計画・方法」に記載した内容について、実際にどのようなことを実施したのかについて記載。 （500～600 字）	本企画にあたり、まず所蔵資料であるフランスのカラー風刺雑誌 Le Rire の確認を行った。Le Rire の保存状態には幅があったが、概ね展示に耐えうるものであった。バラの雑誌に加えて合本されている資料もあったが、展示にあたってはバラの状態のものから選択し展示することにした。刊行時期は広範にわたるため、創刊年である 1894 年から第一次世界大戦までの期間に絞ることにした。選定に際する助言をいただく専門家をみつけるのには困難を要したが、潮江先生になんとか探し出していただき、フランス近代美術に詳しい三谷理華先生にご協力いただく運びとなった。今回は Le Rire を実質初めて紹介する機会となるため、Le Rire のもついくつかの重要な側面をできるだけ満遍なくカバーするよう選定した。つまり、ヴァロットンやロートレックなどの有名画家を擁した点、日清戦争や浮世絵のモチーフなど日本の政治や文化に関する点、当時の政治や風俗・生活に関する描写がなされている点、人物を誇張して表現するカリカチュアの表現などなど、これらの観点から図書館の限られた展示スペースに陳列できる数に絞った。旧蔵者・渡辺恂三の作品はパリ留学時代に描かれたものを中心に選定。Le Rire は 3 つのガラスケース（1 つにつき 10 点陳列）に原本を、エントランスに 10 点コピー展示を並べ、カリカチュアに付されたテキストの翻訳を別途資料として配布し、ガラスケースを囲むように渡辺恂三作品を展示した。なお、ガラスケースやイーゼルなど備品の提供や設営にあたっては西山さんはじめ図書館職員の皆さんの善意に依るところが大きかった。少ない予算に理解を示し、親身に協力してくださった職員の皆さんのおかげで本プロジェクトが成立したことを付け加えておきたい。	

実績報告 ※プロジェクトを通じてどのような成果を得ることができたのかについて具体的に記載。 （500～600 字） ※別途、プロジェクトの実施状況や成果が分かるものを画像ファイルもご提出ください。 （必須）	図書館職員によれば、会期中は図書館を利用する学生や教職員のほとんどが展示スペースで足を止め、作品を鑑賞していたとのことであった。外部の申込は一週間以上前までにメールで日時を予約しなければならないという制約にもかかわらず、55名の来館者に恵まれた。今回のプロジェクトでは、作家個人のコレクションが創作に及ぼした影響を探ることができた。本学図書館が1615冊を収蔵するLe Rireのコレクションは本学卒業生で洋画家の渡辺恂三がフランスで蒐集したものであるが、これらの資料はコレクターとしての情熱というよりは、ベル・エポックの画家たちのユニークな視点や技法に対する純粋な興味から集められたものだと考えられる。創作を業とする画家としてLe Rireをインスピレーションの源にしており、直接的な影響は一見すると感じられないが、対象を斜めに見つめ、笑いや官能を混じえて描いた恂三の表現はLe Rireの表紙を飾った作家たちの表現と合致するところが多いことが展示を通じて明らかになった。また、Le Rireの挿絵表現は作家やテーマ、時代ごとに多岐にわたり、着目する観点によって多様な見え方が可能である。美術史的な観点だけではなく、印刷技術史、民俗史、政治文化史、外交史などの史観によって様々な捉え方ができるだろう。特に来館者の中からはカリカチュアの側面からの研究をのぞむ声がいくつか届いたため、次回はテーマを絞ってプロジェクトに臨みたい。

※本様式に加え、補足資料として PDF ファイルや音声データ、映像データ等の提出も可。(必須ではありません)

Le Rire
Le Rire
Le Rire
Le Rire
Le Rire
浮世絵芸術
音楽学

DECOR